

長崎短期大学の授業のピアレビューに関する考察

Consideration on peer review of classes at Nagasaki Junior College

小浦 康平、市瀬 尚子

1. 要旨

中央教育審議会答申でも述べられているが、FD 活動の一つとして同僚教員による教授法評価や教員の諸活動の定期評価が挙げられている。その手法の一つとして授業のピアレビューを導入することも効果的であると述べられている。

本稿は長崎短期大学の大学改革・IR 委員会（旧大学改革委員会）における平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 年間の授業のピアレビューの取り組みの結果において、特にレビューシートに記入された「学んだ点」及び「改善した方がよい点」に焦点を当て、「大学教員に必要な教育能力」の 5 項目への振り分けを試みた結果を考察し、今後の全学的な授業改善に役立てていくものである。

2. 背景

中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」答申（平成 17 年 1 月）では、FD の定義・内容について「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができるとしている」としている。¹⁾

また、文部科学省は FD を紹介するサイトにおいて、絹川正吉・館昭編著『学士課程教育』（平成 16 年 東信堂）を引用し、その中で FD 活動の一つとして（7）アセスメント（学生による授業評価、同僚教員による教授法評価、教員の諸活動の定期的評価）を挙げている。¹⁾

さらに、中央教育審議会「新時代の大学院教育」答申（平成 17 年 9 月）の中でも、教員の教育・研究指導の内容を同一学科内の教員が評価できる仕組み（いわゆるピアレビュー）を導入することも効果的であると述べられている。²⁾

こうして 12 年前から FD 活動として授業公開の必要性が語られ、高等教育機関での実施が試みられてきた。しかし本学では、過去にも公開授業を思案された経験はあるものの実施に至っていなかった。この障壁としてあったものは、授業を他者評価されることからの心理的ストレスである。授業公開の機会を授業改善のために前向きにとらえることができるよう、まずは徐々に本学における授業公開のシステムを浸透させ、教員全体に定着させていくことが重要である。

このような背景から、平成 29 年度（2017 年度）より授業のピアレビューを実施するに至った。以下、平成 29 年度～令和 2 年度の 4 年間において継続した結果を検証した。

3. 本学における授業のピアレビューの目的

本学における授業のピアレビューは、教員の人事に関する総括的評価ではなく、教育の質向上に向けた教員の相互評価による形成的評価である。

授業のピアレビューを通して、本学で授業をおこなう同じ立場の者同士が授業を参観したことによって何を得たのかを明確にし、その後の自身の授業に役立てることを第一義の目的と掲げつつ、授業の内容や方法につ

いての改善点を伝えることによって、学生のための教育改善につなげていくことを目的とした。さらに、お互いの授業の悪い点を指摘しあうためのものではなく、あくまで「参観者が自分の授業のための糧にすること」とした。まずは「ピアレビューのシステムに慣れていくこと」が望まれた。

また、教員の相互評価だけでなく、学生による授業評価も教育の質の向上には欠かせないものであるが、学生による授業評価については別途継続的に実施している。

4. 実施の概要

4-1 授業のピアレビュー実施方針

- ①公開者：本学の専任教員（助手は含まない）
- ②公開数：教員1名につき年間1コマ以上
- ③参観者：本学教職員（非常勤講師、事務職員は任意）
- ④参観数：教員1名につき年間1コマ以上
- ⑤公開期間：授業公開マンス（前期6月、後期12月）

4-2 エントリー方法

- ①公開者エントリー希望教員はシートに必要な事項を記入（前期5月中 後期11月中）
 - （1）参観時の要望事項を記入
 - （2）特に見てほしい事項を記入
- ②公開授業スケジュール公表（前期5月下旬 後期11月下旬）
- ③参観者エントリー（前期5月下旬 後期11月下旬）

4-3 授業のピアレビューの内容

- ①参観者は授業の感想を記録し、参観後1週間以内に公開者へ提出
 - （1）学べき事項（参観者が参観によって学んだ点）
 - （2）改善した方がよいと思われる事項
 - （3）教室・設備環境について気づいた事項
- ②公開者は、公開授業を終えて参観者の感想を得た後、公開者欄にコメントを記入する
- ③授業のピアレビュー内容をまとめたシートを公開し、図書館に保管する

5. 2017年度—2020年度のまとめ

5-1 公開者数と参観者のレビュー数

2017年度から開始した授業のピアレビューの公開者及び参観者のレビュー数は以下の通りである。(表1)

	前期		後期	
	公開者数	レビュー数	公開者数	レビュー数
2017年度	12	31	9	12
2018年度	11	22	19	27
2019年度	9	13	19	32
2020年度	—	—	32	55

(表1、実施人数)

※2020年度は後期のみ実施

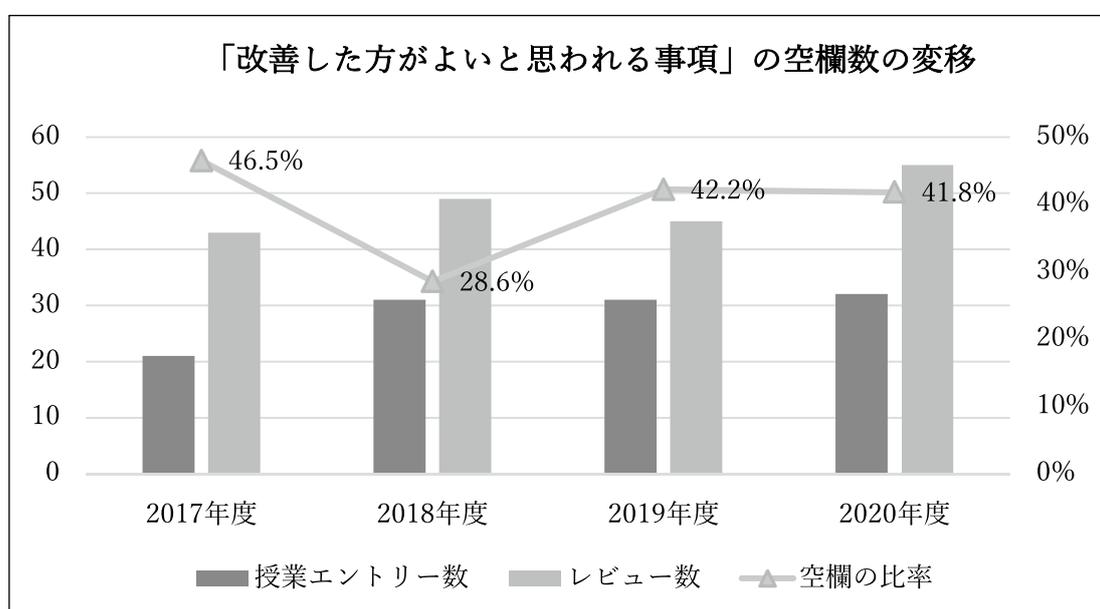
※公開者数及びレビュー数はのべ数

5-2 実施結果「(2) 改善した方がよいと思われる事項」について

計画当初、本学でも授業を公開することについては教員の懸念があったため、レビューシートは前述の4-3の通り量的な評価を避けた記名式の自由記述式としてスタートしている。

開始した2017年のレビューシートは「勉強になった」や「参考になった」などのポジティブな回答が多く見られ、『改善した方がよいと思われる事項』には空欄も目立った。

全教員に毎年同じ科目の公開を依頼しているわけではなく、教員の入替わりや公開する授業科目の変化もあるため厳密には効果を推測することは難しいが、年を重ねるごとに「(2) 改善した方がよいと思われる事項」への空欄が減り、指摘のレビュー数が増えてきているように感じられた。(図1)「(2) 改善した方がよいと思われる事項」への記入は、本レビューの中でもデリケートな部分であり記名式であることから、同僚教員への指摘を憚ったと考えられるが、授業への指摘がその後の授業改善へ繋がる有効な助言として受け止められていったと考えることができる。同記入の変化は、4年間にわたる継続的な授業のピアレビュー実施による教育力向上の意識の浸透や他の様々なFDSD研修による効果であると考えられる。



(図1、「改善した方がよいと思われる事項」への空欄数の変移)

5-3 大学教員に必要な教育能力

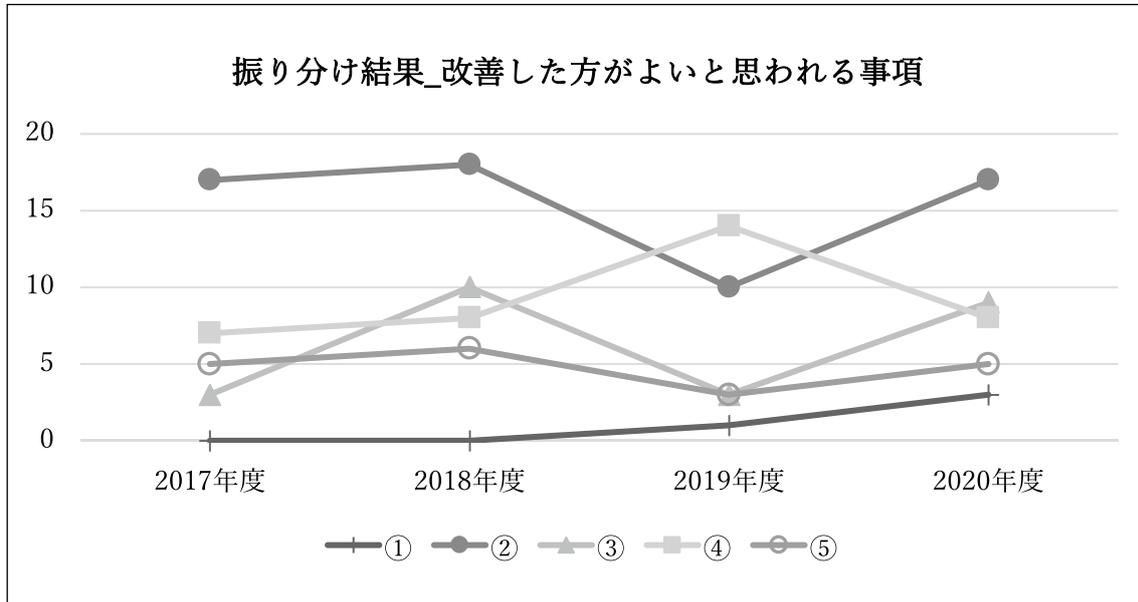
「改善した方がよいと思われる事項」の回答数の集計だけではまだ焦点が明確ではないため、記入内容の質的部分を分析するべく、以下の「大学教員として身につけるべき能力」の5つを指標として振り分けを試みた。

文科省における「大学教員の教育活動・教育能力の評価の在り方に関する調査研究」調査報告書(平成28年 株式会社 リベルタス・コンサルティング)のアンケート結果から、「大学教員として身につけるべき能力」について、割合が高い順に次の5つの項目が挙げられている。³⁾

- ①専門分野における知識・能力
- ②講義でわかりやすく知識を伝達する能力
- ③演習、実習で学生を指導する能力
- ④学士課程の学生の意欲を引き出す能力
- ⑤授業を設計する能力

5-4 5つの指標への振り分け結果（改善した方がよいと思われる事項）

4年間のレビューの「改善した方がよいと思われる事項」（自由記述）の質的内容を5つの指標①～⑤に振り分けたところ、カテゴリーごとの指摘数は以下のような結果となった。（図2）



（図2、振り分け結果_改善した方がよいと思われる事項）

大学教員に必要な教育能力の5項目	結果概要
①専門分野における知識・能力	4年間を通して最も指摘が少ない
②講義でわかりやすく知識を伝達する能力	5つの中では最も指摘が多い
③演習、実習で学生を指導する能力	
④学士課程の学生の意欲を引き出す能力	若干だが徐々に増えている可能性がある
⑤授業を設計する能力	

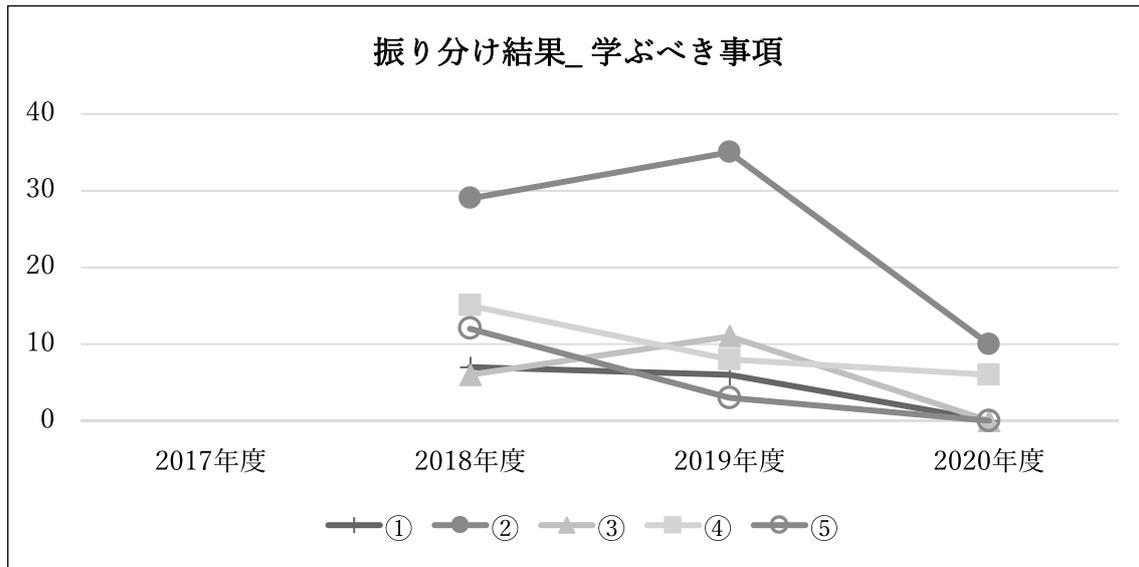
指摘数としては、②講義でわかりやすく知識を伝達する能力、④学士課程の学生の意欲を引き出す能力などが多く、①専門分野における知識・能力、⑤授業を設計する能力に対する指摘は比較的少ない傾向だった。

5-5 「改善した方がよいと思われる事項」の記入例

- ・ 具体例や経験を交えた指導
 - ・ 配布資料と画面上の統一化
 - ・ 授業の最後に重要点を確認するべき
 - ・ 個人差を補う指導
 - ・ 時間配分や授業設計の見直し
- など

5-6 5つの指標への振り分け結果（学ぶべき事項）

同様に「学ぶべき事項」（参観者が参観によって学んだ点）の質的内容を大学教員に必要な教育能力の5つの指標①～⑤に振り分けたところ、以下のような結果となった。（図3）



(図3、振り分け結果_学すべき事項)

学すべき事項に関する記述も改善した方がよいと思われる事項の結果と概ね同様に、②講義でわかりやすく知識を伝達する能力に関する記述が多く、⑤授業を設計する能力等に関する記述は比較的少なかった。

5-7 「学すべき事項」の記入例

- ・ 教員の経験を織り交ぜた授業内容
- ・ プリントや板書の工夫
- ・ 個人レベルに合わせた指導
- ・ 結果を記録し、成長を可視化
- ・ 授業目的の具現化や授業構成
- など

6. 考察

・改善した方がよいと思われる事項について

講義でわかりやすく知識を伝達する能力の指摘については、専門分野に関係なく全教員に関わる広い内容であるため指摘数が多かったと推察する。逆に専門分野への指摘が比較的少なかった理由は、参観者が自分の専門分野以外の授業にも積極的に参観した結果ではないかと考察する。(参観者は複数の授業を参観する場合がある。)

・学すべき事項について

改善を指摘する記述と学すべき事項の両面共に、「②講義でわかりやすく知識を伝達する能力」に関する記述が集計上多かったことから、参観者の大方の興味もここにあったのではないかと考える。また、参観者にとって専門分野への記述が特にデリケートな部分であると仮定すれば、レビューシートへの記入のしやすさも原因であると考えられる。(①と②, $t(2) = 3.665, p = .067, p > .05$, 有意差なし, ②と⑤, $t(2) = 3.031, p = .094, p > .05$, 有意差なし)

7. まとめ

本報告では、レビューシートの自由記述を大学教員に必要な教育能力の5項目に振り分けた視点からの分析

を試みた。学ぶべき事項については「②講義でわかりやすく知識を伝達する能力」に関する記述が比較的多かったことが分かった。改善した方がよいと思われる事項に関しては、5つの中では「①専門分野における知識・能力」に対する記述が最も少なかった。

本学での授業のピアレビューがスタートして4年が経過し、教員の間では恒例になりつつあり、第一段階の目標であるこのシステムの浸透は概ね達成されたと考えられる。

今回の結果を踏まえ、公開授業の仕組みのバージョンアップやPDCAサイクルの実現に向けた具体化、及びピアレビューシートの改良の検討を始める段階であると考えられる。

今後も継続してピアレビューを行う上で、大学改革委員会・IR委員会では提出後のピアレビューシートの活用法及びシート内容の再検討を行い、ピアレビューを実施する目的でもある「学生のための教育改善」、「教育の質の向上」へと繋げていくことが求められる。

8. 参考資料

*1) 文部科学省ホームページ 中央教育審議会「2FDの定義・内容について」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/006/003.htm

*2) 文部科学省ホームページ 中央教育審議会「3. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1415112.htm

*3) 文部科学省ホームページ 「大学教員の教育活動・教育能力の評価の在り方に関する調査研究」調査報告書
(平成28年 株式会社 リベルタス・コンサルティング)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1371454.htm